# SS-Lecture 菅平・峰の原高原実習

令和4年9月10日　筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所･峰の原高原にて

筑波大学山岳科学センター 田中健太先生、峰の原高原観光協会・峰の原高原 Mine のメンバーの方々にご協力いただき、菅平・峰の原高原実習を実施しました。

**【実験所内の野外フィールド見学：菅平高原実験所にて】**

菅平高原実験所は黒ボク土の堆積により、何千年も前（縄文時代）から草原だったことが分かっているそうです。草原の管理放棄などにより森林化したところもありましたが、人為的な管理により現在の草原を維持しているそうです。

生徒たちにとって「草原」というイメージからは想像がつかないような、背丈ほどある草むらをかき分けながら、草原内に生育する植物について解説をしていただきました。草原を進んでいくと、徐々に木本が見られるようになり、アカマツやミズナラ、ヤマナラシなどが生育する混交林に到着しました。実際にさわってみたり、木をゆらしたときの音を聞いたり、葉を食べてみたりと、五感を使いながら、遷移の様子を見ることができました。

**【植物標本の作製】**

採取した植物（ヤマナラシ、ミズナラ、クロビイタヤ、ズミ、マユミ）を使い、植物標本の作成方法を教えていただきました。植物標本は生物多様性について知ることができる手段となり、標本のデータベースは研究や教育活動に利用されているそうです。

**【観光協会の方々からのお話：峰の原高原にて】**

午後からは、峰の原高原に移動をして、峰の原高原の自然や景観を守るために活動をされている、峰の原高原観光協会・峰の原高原 Mine のメンバーの方々にお話をしていただきました。草原の保全についてサスティナブルツーリズムの観点から、峰の原高原での取組について教えていただきました。

**【草原維持活動についての講義・峰の原高原の散策】**

自然かく乱の減少や、利用・管理の減少から、ここ１００年で９割以上の草原が無くなり、森林化してしまっている。草原には希少な山野草が存在し、多くの絶滅危惧種も存在しているそうです。草原を草原として維持していくためには、適度な手入れと利用が大切であることを教えていただきました。

説明して下さった植物を、高原を散策しながら実際に見せていただきました。ワレモコウやツリガネニンジンなど、古くからある草原にしか生息しない種を見ることができたり、オミナイシ、マツムシソウ、エゾリンドウなど季節の種を見ることもできました。

**【草刈り作業への参加】**

「峰の原の草原をつくろう」の活動として行われている、ススキ刈りを体験させていただきました。生徒たちは、楽しみながらも一生懸命にススキを刈り取り、環境保全の大切さを理解することができたようです。

菅平実験所にてフィールドワーク
草原をかきわけて歩きました。

植物標本作製

峰の原観光協会・峰の原高原 Mine
お話をしていただきました。

峰の原高原の散策

草刈り作業